

今回のお知らせ

- 新潟本社代表会見：新潟県原子力防災訓練への協力など
- NPO法人コメリ災害対策センターとの協定締結
- 柏崎刈羽原子力発電所の安全対策：格納容器破損防止対策について

新潟本社代表会見：新潟県原子力防災訓練への協力など

7月1日、新潟本社代表の橋田による記者会見を実施いたしました。

会見では、新潟県が開催する原子力防災訓練に事業者として最大限ご協力させていただくことや、原子力災害の防災支援について、現在、新潟県と調整を進めている「防災に関する協力協定」を踏まえ、対応することをお伝えしております。

その他、国立大学法人長岡技術科学大学との防災・減災に関する共同研究の進捗状況や出雲崎町の災害対策支援拠点の整備完了などについてもお知らせしております。

会見映像や資料につきましては、当社ホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。



NPO法人コメリ災害対策センターとの協定締結



2020年4月7日、当社はNPO法人コメリ災害対策センター（以下、「コメリ災害対策センター」）と、災害時における物資供給等の支援に関する協定を締結いたしました。

本協定に基づき、災害発生時にはコメリ災害対策センターより災害復旧要員向けの支援物資を提供いただくなど、両者で円滑な連携を図り、迅速な災害地復旧活動を行ってまいります。

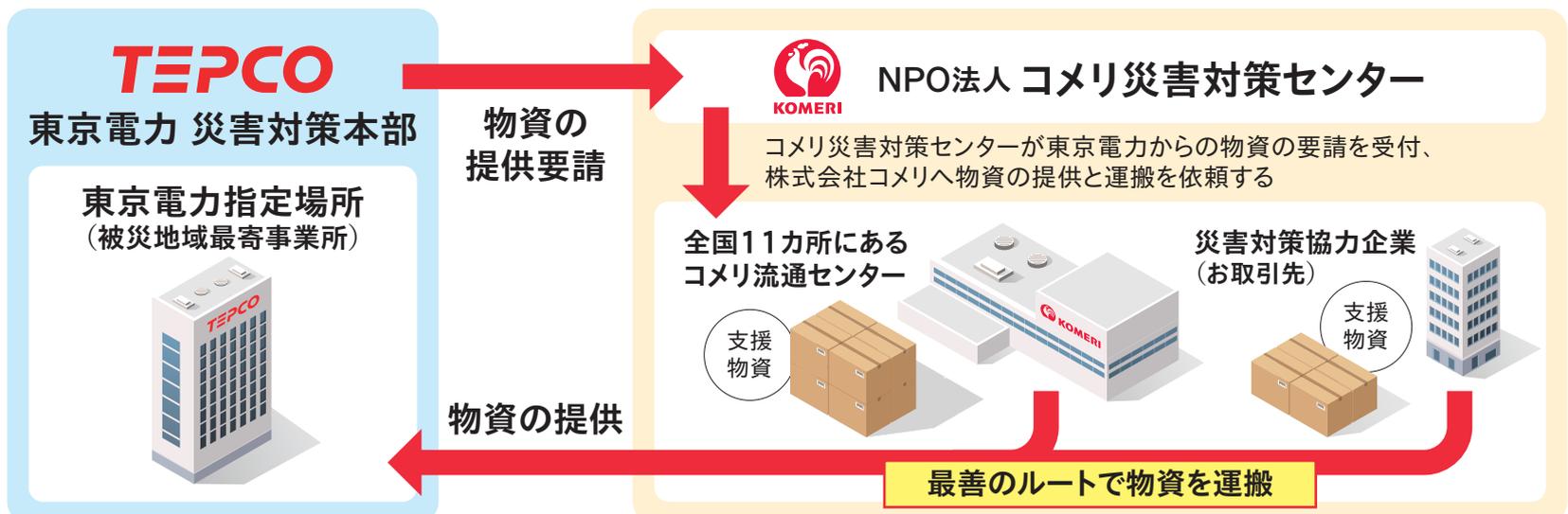
当社は、今後も「防災・減災」力の向上を通じて、少しでも皆さまのお役に立てるように、取り組んでまいります。

当社ホームページより、協定の詳細をご覧ください。



災害発生時の具体的な運用

- ①コメリ災害対策センターは、当社に対して災害発生時における災害復旧要員向けの支援物資（応急復旧用品、避難所用品等）を提供する
- ②その他、災害発生時にコメリ災害対策センターによる支援が必要な場合には、協議の上、コメリ災害対策センターが対応可能な支援を行う



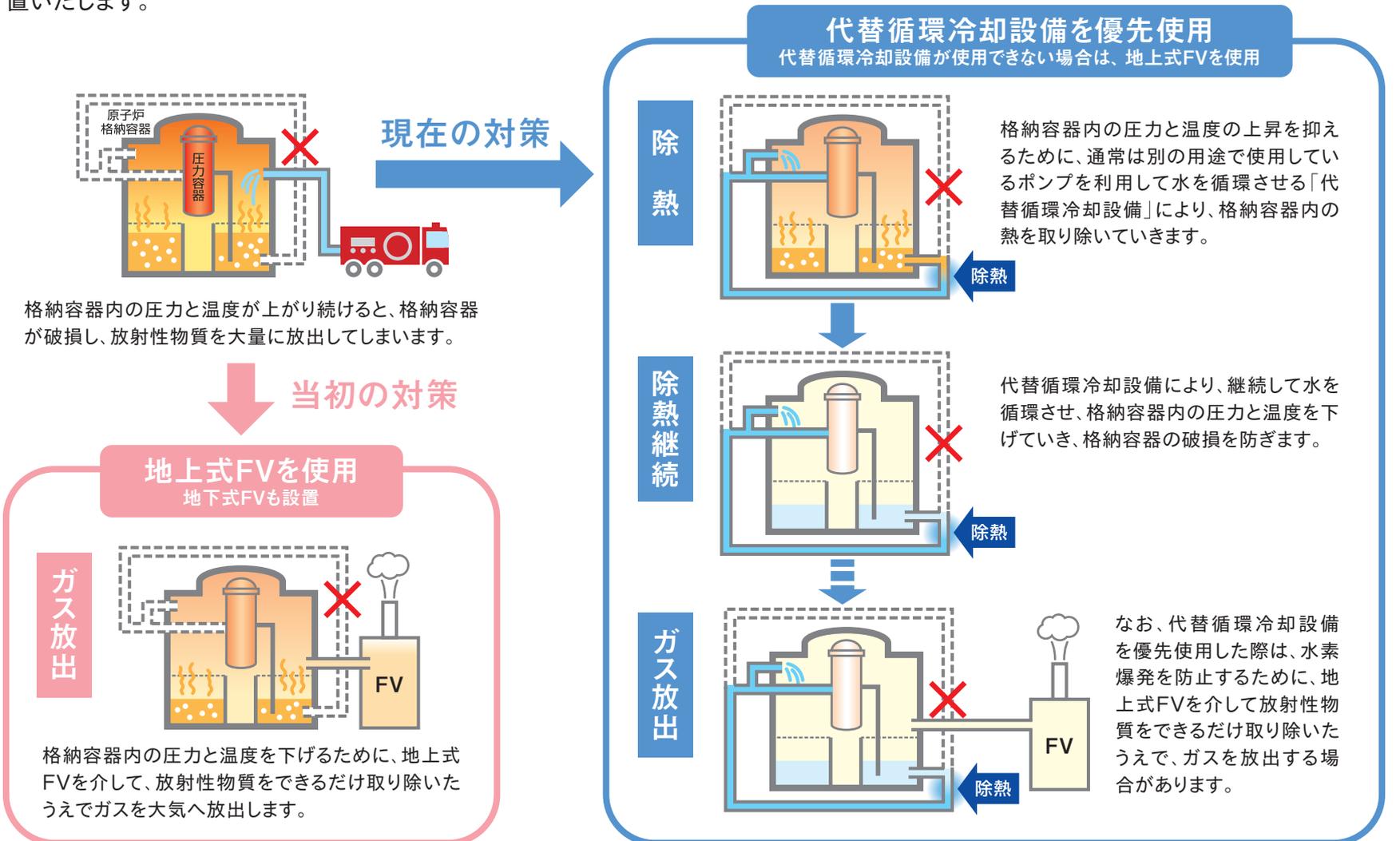
災害発生時の対応力向上に取り組んでまいります。

柏崎刈羽原子力発電所の安全対策：格納容器破損防止対策について

「格納容器」は、燃料が入っている原子炉を格納する容器で、放射性物質を閉じ込める重要な役割があります。万が一、燃料が冷却できなくなり、格納容器内の圧力と温度が上がると、格納容器が破損し、放射性物質を大量に放出してしまいます。当社では、福島第一原子力発電所の事故の教訓を踏まえ、燃料を確実に冷却するために電源・冷却手段などを強化するとともに、格納容器を守るための対策に取り組んでおりますので、その概要をお知らせいたします。

格納容器破損防止対策の概要

福島第一原子力発電所の事故では、2号機のベント（格納容器内のガスの放出）に失敗した結果、破損した格納容器から直接、大量の放射性物質が漏えいしたと推定しております。こうした教訓を踏まえ、柏崎刈羽原子力発電所では、電源がなくても遠隔からの操作を可能とし、かつベント時に放射性物質を取り除くためのフィルタなどを備えたフィルタベント設備（以下、「FV」）を地上および地下に設置することを計画しておりました。その後、さらに放射性物質を放出しない方法を検討した結果、「代替循環冷却設備」（格納容器内の除熱）を新たに考案したことから、格納容器破損防止対策を「代替循環冷却設備と地上式FV」の組み合わせに変更し、原子力規制委員会から許可をいただいております。なお、地下式FVは、特定重大事故等対処施設（※1）いわゆるテロ対策施設として、設置期限（※2）を待つことなく、可能な限り早期に設置いたします。



代替循環冷却設備を優先使用した場合の効果

代替循環冷却設備を優先して使用し、放射性物質の放出を可能な限り回避することで、当初よりも「避難に要する時間余裕の確保」「被ばく低減」「土壌汚染の更なる低減」の効果が期待できます。

	原子炉設置変更許可申請書における評価シナリオに基づく評価結果	
	〈当初〉地上式FVを使用	〈現在〉代替循環冷却設備を優先使用
事象発生からの放出タイミング	約38時間後	約14日後 (放出しない場合もあり)
セシウム137 (※3) 放出量	福島第一原子力発電所 事故時の約1/5000	左記の約1/2

※1 特定重大事故等対処施設：故意による航空機衝突やその他のテロリズムにより、炉心の著しい損傷が発生した場合に、原子炉格納容器の破損による放射性物質の放出を抑制するための施設
 ※2 設置期限：プラント本体の工事計画認可から5年以内
 ※3 セシウム137：ウラン燃料が核分裂をしたときに生じる放射性物質

詳細は、当社ホームページよりご覧いただけます。

